



この展覧会はギャラリー睦(千葉)で行われた。倉重光則(5点) 十河雅典(37点) ミラン・トゥーツォヴィッチ(16点)は、いずれも昨年ステップスギャラリーでの個展で新作として発表された、強力な作品である。ところが、場所が変われば見え方にも変化が生じる。各作品に、新たな発見もある。これこそ現代美術の最大の魅力ではあるが、今回最も重要なのは、展示方法にある。ステップスギャラリーオーナー・吉岡まさみは、密度の高いステップスギャラリーと、開放感溢れるギャラリー睦の空間の差異を最大限に強調し、作品の魅力を引き立たせた。

同時に吉岡は、自らのコレクションが多くの人の手に渡って欲しいと願っていることが伝わってくる。ここで作品を見ると、つい、プライスが気になってしまうのだ。ギャラリー睦は美術館で在りながらリビングルームでもある。倉重のインスタレーションが「所蔵」できる、世界的に比類のないミランの作品を手中に収めることができる、十河のかけがえのない作品は地獄に希望を与えてくれる。作品を持つこととは、市場経済とは全く異なる価値観を自己に与えることでもある。その為、莫大な「金銭」ではなく「勇氣」が必要となる。今、「勇氣」が不可欠なのだ。

